Office for the Promotion of Gender Equality, Sophia School Corporation

NEWSLETTER

March 2017 No.9

上智学院
男女共同参画推進室

「いま期待される女性のリーダーシップとは ー女性のリーダーシップで社会が変わる、社会を変えるー」

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業
「いま期待される女性のリーダーシップとはー女性のリーダーシップで社会が変わる、社会を変えるー」を開催しました。

12月1日、国連ウィメン日本協会が中心となり、本学および内閣府等と共催するシンポジウム「いま期待される女性のリーダーシップとは」を開催しました。
スポーツ庁長官鈴木大地氏をはじめ、各分野で活躍する女性リーダー5名をパネリストとして迎え、2号館国際会議場をメイン会場として約300名が参加しました。

開会挨拶　有馬　真喜子　国連ウィメン日本協会　理事長
髙祖　敏明　学校法人上智学院　理事長

基調講演　**「スポーツを通じた女性の活躍促進」**
鈴木　大地　スポーツ庁長官

パネルディスカッション「私の歩んだ道ーそして未来を拓く」
河本　宏子　全日本空輸株式会社　取締役専務執行役員
グループ女性活躍推進担当
木山　啓子　認定NPO法人ジェン（JEN）　代表理事
三屋　裕子　公益財団法人　日本バスケットボール協会　会長
村木　厚子　前厚生労働事務次官
山口　香　筑波大学　体育系准教授
コーディネーター
目黒　依子　国連ウィメン日本協会副理事長 上智大学名誉教授

スポーツ庁長官の鈴木大地氏の基調講演ではスポーツ庁の組織や取り組みを紹介し、女性トップアスリートの国際競技力の向上に向けた強化策や女性のスポーツ参加促進に加えて女性のスポーツ指導者の育成について現状の問題点と今後の課題について話されました。
パネルディスカッションでは「今の自分につながるキャリアや転機となった経験」、「これまでに直面した課題・障壁を乗り越えるための解決法」、「女性が真に輝く社会を構築するために必要な要素・条件」の3点について、各パネリストがご自身の経験に基づきユーモアを交えながら熱気あるセッションが行なわれました。
参加者からは「お話を聞いて元気が出た」「時間のたつのも忘れて、皆さんのお話に聞き入った」などのコメントが出され、男女共同参画推進のための有意義なシンポジウムであったことが伺われました。

教職協働イノベーション研究チームとの共催による特別講演

「女性職員がいきいき働き活躍できる職場づくりの施策とは？」を掲げる教職協働イノベーションチームに協力し、講演会を開催しました。

2016年7月15日
「女性が活躍する職場をどう実現するか　～そのメリットと推進のポイント～」
講師　麓 幸子氏（日経BP社執行役員）
企業で管理職や役員として長年活躍される一方、家庭では２児の母でもある立場から、「時間制限がある人にもない人にも新たな報酬を」という考え方とともに、ワーク・ライフ・バランスを考えてゆくことの重要性を熱く語っていただきました。

2016年9月9日
「HONKI　SWITCH ON！ ～組織も、人も、もっと輝ける～」
講師　森本 千賀子氏（株リクルートエグゼクティブエージェント エグゼクティブコンサルタント）
転職エージェントにおいてコンサルタントとして活躍されている森本氏が、ご自分の経験を踏まえて、キャリアの考え方、リーダーに求められる資質、仕事以外でのつながりや地域等で自分を生かしてゆくことについての重要性などを、生き生きと語ってくださいました。

教職協働イノベーションとは・・・学院の教員と職員が協働し、あるいは職員が所属部署の枠組みを超えて協働して、上智の理念に基づき、その達成のための学院行政および教育・研究体制の改善・改革に向けた、実現可能な研究・政策提言を行っています。

スプツニ子！氏　特別講演
スプツニ子！の人生論～はみだしてもいい！

「スプツニ子!氏　特別講演」を開催しました。

日時：2016年11月10日（木）17時30分～19時　場所：2号館17階国際会議場
現代アーティストにして、マサチューセッツ工科大学（MIT）メディアラボ助教のスプツニ子！さんを講師にお迎えして「スプツニ子！の人生論～はみだしてもいい！」と題する講演会を開催しました。
　スプツニ子！さんは、数々の展覧会にテクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を発表しており、ジェンダーに関する問題提起も独自の方法で発信しています。会場は満席（200名）で、参加者はスプツニ子！さんのエネルギーとオーラと斬新な発想に魅了されました。

人生論というタイトルの講演会でしたが、「スペキュラティブ・デザイン」:問題提起のためにデザインするというご自身の現在の活動についてスライドと動画を用いて紹介いただきました。

「世界は常に人の頭から生まれている。人の発想が変われば、世界も変わる」との考えをレクチャーし、ご自身の発想をアート作品として具現化し提示しました。同性カップルの遺伝子情報を解析して、どのような子どもが生まれるかを分析した研究「(Im)possible Baby（長谷川愛）」、遺伝子組み換えとオキシトシンにより赤い糸をつむぐ蚕作製の試み「運命の赤い糸をつむぐ蚕 - たまきの恋」、アートと最先端技術で未来の八百万のかみさまの在り方を思索していく「豊島八百万ラボ」などの作品を披露され、参加者の意識を大いに刺激・啓発しました。

講演後、学生が最近の関心事について質問したところ、自動運転車（人工知能）と倫理の問題について話され、人工知能は倫理をどう処理するのか、人種、民族、宗教、地域によって倫理観が異なるように、自動運転車の仕様も異なっていくのではないかと常に新しい事にチャレンジしているパワフルな回答が返ってきました。

当日は、著書『はみだす力』（宝島社）を会場に用意し、若者をエンパワーする人生論が、多くの方から支持されていることを主催者からご案内しました。

参加者の感想

- 今日は来ることができてとても良かったです。情熱大陸に出演されている時からスプツニ子！さんファンだったので感動でした。私も発想することを続けていきたいです。
- 私は様々なことに関して自分の意見を発信して人と語り合うのが好きなのですが、正直生意気なのかなぁと思う部分がありました。しかし、スプツニ子さんのお話から、"今の自分でも良いんだ。寧ろもっとやっても良いんじゃないか"と思いました。
- タイミングとして大統領選直後だったこともあり、スプツニ子！さんの率直な気持ちとメッセージがお聞きできて良かったです。自分の励みにもなりました。今まで出会ったことのない考えやそれに関連してどんどん掘り下げられる問題提起に触れ、かなり刺激的な時間を過ごしました。自分にはない発想や展開ばかりだったので、しばらく忘れられないかもしれないです。
- スプツニ子！氏による講演会の第二弾を是非やっていただきたいです！！

編集・発行
学校法人 上智学院男女共同参画推進室
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町７－１　Email：wrsswg@sophia.ac.jp　URL：http://danjokyodo-sophia.jp

オープンキャンパス

「未来のソフィアンのための実験教室＆ワークショップ」開催

日時:2016年7月31日(日)～8月2日(火)3日間　場所:2号館406会議室

理工実験教室

◆7/31 **数学演習:結び目の「ほどける」、「ほどけない」を考えよう！**
理工学部 情報理工学科
大城　佳奈子 助教

◆8/2 **強くて賢い電力システムとは？ー風力発電の導入を例に考えるー**
理工学部 機能創造理工学科
坂本　織江 准教授

プレソフィアンズカフェ

◆7/31 **女子高生にとっての18歳選挙権**
法学部 地球環境法学科
三浦　まり 教授

◆8/1 **直感的vs論理的～確率に基づく意思決定～**
経済学部　経済学科
來島　愛子 准教授

「次世代育成」の取組の一環として、本学女性教員および学生の協力のもと、理工実験教室を実施しました。女子高生の参加は男子高生を7:3の割合で上回わり、理系女子の関心が高まっていることを実感しました。実験に参加することで科学への興味をそそられ、予定の時間が終了しても実験に熱中する姿が印象的でした。

「プレソフィアンズカフェ」は少人数のディスカッションを中心に行うワールドカフェスタイルで行いました。本学女性教員のミニレクチャーの後、大学生のファシリテーターにしたがって、付箋、ボード、丸いダンボール紙のテーブルなどを用いて、高校生がディスカッションを行い、その結果を全員で共有しました。参加型の体験授業ははじめてでしたが、内容は高度でまさに上智の少人数教育を実感できたのではないかと思います。高校生たちは大変満足した様子で、ワークショップ終了後も大学生と個別に懇談するなど、大学で学ぶことを身近に感じてもらえる良い機会になりました。

ロールモデル集Ⅵ　研究支援員制度

研究支援員制度は、出産、育児等のライフイベントにより研究時間が十分に確保できない研究者等(教員、特別研究員)に対して、研究支援員を配置することにより、当該研究者等の研究の継続、進展を支援するとともに、次世代を担う研究者の育成に資することを目的としています。
2016年秋に発行したロールモデル集Ⅵは、2012年度から開始した「研究支援員制度」に焦点をあて、巻末には各種統計データを掲載し、本制度の5年間の運用実績をとりまとめました。

第１回介護セミナー

2016年12月5日(月)に社会福祉専門学校教員で男女共同参画推進委員である三浦虎彦先生を講師として、「家族介護の現状と公私の支援」と題して初の介護セミナーを開催し、ランチタイムに11人の職員が参加しました。現在、要介護認定者は608万人を超え、無認定の方も含めれば1000万人の方がなんらかの介護を必要とされており、誰もが介護をする／される立場にあることをグラフを用いて解説されました。日頃から予防も含めて公的サービスについての情報を地域包括支援センターから入手するとともに、私的な支援ネットワーク(ケアラー連盟、認知症の人と家族の会等)についてもアンテナを張っておくことの重要性を説明されました。参加者から深刻な介護の現状をいかに解決し、継続的に対応していかなければならないとの意見もだされ、有意義なひと時となりました。

研究支援員制度に「介護」も対象となります

これまで出産･育児支援のため研究支援員制度を運用してきましたが、2017年度からは介護も支援対象となります。育児と並んで介護は、ワーク･ライフ･バランスを保ちながら研究活動を行うための環境づくりの一環として考えなければならない深刻かつ喫緊な課題です。今後、超高齢化がますます進むにあたり、両立支援の対象とすることは時代の要請でもありますので、今般、研究支援員制度を改正しました。

今回追加された支援対象者

◆上智学院専任教員及び特別研究員(PD)のうち、要介護認定を受けている父母その他の親族を介護している者。
◆介護休暇･介護休業その他休職中の者を除く。
◆原則として配偶者がフルタイムで勤務している者もしくは一人親家庭、単身者。
◆ただしフルタイムで勤務していない場合であっても、介護、子供の人数、家族の健康状況など、特別な事情がある場合は個別に判断する。

ソフィア・パープル・アクション・キャンペーン

女性への暴力撤廃及び人権に関するアクション／16日間キャンペーン
実施期間:2016年11月25日～12月10日

11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」及び12月10日の「世界人権デー」にあわせ、世界中で女性に対する暴力撤廃や人権に関するアクションが行われています。
本学においても、この時期に意識啓発の一環として、テーマカラーのパープルを冠し『ソフィア･パープル･アクション』として様々な企画を実施しました。

パネル展示

総合グローバル学部の田中雅子准教授及び学生有志の協力により、パープルアクションの取組み、世界の女性に関するデータ、DV、LGBT等を紹介したパネル15枚を2号館エントランスに展示しました。

ブックフェア

人権や暴力をキーワードにした本を学内にある紀伊國屋書店と図書館に展示し、ブッフェアを開催しました。教員からの推薦文や学生の感想をポップやファイルで提示し、この機会に本を手にとり、関心を高めるきっかけとなりました。

イベント

タイトル:#imwithyou　世界と日本の女性に対する暴力について一緒に考えましょう！
日時:12月8日(木)17:00～19:00
場所:図書館9階921会議室

本学名誉教授目黒依子氏が代表を務めるNPO法人Gender Action Platform(GAP)と共催してワークショップを開催しました。7人の学生ボランティア実行委員の協力も加わり、企画から実施まで学生が主体的に運営しました。世界の現状をGAPの本学OGである大崎麻子氏が解説し、「13歳の花嫁(ニジェール)」などの動画が紹介されました。日本の現状についてはジャーナリストの治部れんげ氏が解説し、その後世界と日本の現状を踏まえて「ソフィアンにできること」という題で参加者を含めてディスカッションを行いました。学生の発表を受けて、代表の目黒氏が現在のジェンダー問題について問題提起し、今後はひとり一人が小さなアクションを起こすことが重要になってくると締めくくりました。

アジア文化研究所との共催『女を修理する男』映画上映会

2016年11月17日、アジア文化研究所主催のコンゴの性暴力と紛争をテーマとする『女を修理する男』上映会を共催し、100名を超える多くの参加がありました。
コンゴの東部は紛争資源の多い地域で、多発する性的暴行が問題となっています。被害にあった女性たちを外科手術と対話で治療する婦人科医のデニ･ムクウェゲ医師を描いたティエリー･ミシェル監督のドキュメンタリーです。上映後、立教大学特任准教授の米川正子氏から映画の背景について解説があり、女性に対する大規模な性暴力の横行は、紛争手段としての性的テロリズムであり、性暴力は性欲の問題ではなく、「権力」の問題であると説明されました。参加した学生からは多くの踏み込んだ質問が出され、有益な時間を共有しました。